

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'93 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦選会館内 〒151
振替 東京九一―一九一八九一
発行 一九九三年六月一九日

一九九三年度総会報告

さわやかに晴れた四月三日土曜日、一九九三年度の総会が開かれました。場所は昨年と同じ渋谷女性センター・アイリス。新しい教育課程による「技術・家庭」の共修がスタートし、高校「家庭」の共修実施を目前にして、活発な発言が続きました。

一九九二年度総括は修正の上、九二年度決算は報告通り承認されました。(詳細は2ページ)

一九九三年度運動方針は修正して決定、九三年度予算と九三年度世話人は提案通り決定しました。(詳細は3〜4ページ)

九三年度は今まで以上に各地域での運動、各地の情報の交換に力を入れることになりました。国の方針は決まり文部省も男女必修に

向けて積極的な姿勢を示すようになった今、共修を確かなものにするために一番重要なのは、地域での運動だからです。

全国の会員の皆さんに、それぞれの地域でできるだけ活動していただきたいと思っています。地域の状況に応じて、道府県教育委員会や議会、組合や教育関係の団体、各学校などに働きかけて下さいますように。会には残念ながらがっちりした支部組織はありませんので動きにくいとお思いかもしれませんが、世話人にご相談下されば具体的方法などおしらせします。(12・13ページも参考にして下さい)

司会 柴田栄子
記録・まとめ 梶谷典子

もくじ

一九九三年度総会報告	(1)
学習交流会報告	(5)
夏の集会のご案内	(8)
総理府の調査	(9)
各地から	
「熊本一高」問題・その後	(9)
鳥取県の男子の履修状況	(9)
「家庭一般」男女共修の今昔(滋賀)	(10)
減単は認めないというけれど(静岡)	(11)
もっと議員に働きかけよう(埼玉)	(12)
都教育庁に文書質問	(13)
国際婦人年連絡会の報告	(14)
世話人会報告	(16)
母親大会実行委員会への参加をやめたわけ	(17)
文部省も積極的になりました	(18)

へお願い

住所、電話、お名前等の変更は、なるべく早く、事務局に郵便でお知らせ下さい。

一九九二年度 総括

報告 青山 和世

九二年度中に行った活動を確認し、次のように総括しました。

重点目標のうち、「家庭科教員を増やすための働きかけ」については、文部省が第五次公立高等学校学編制及び教職員配置改善計画の中で、「男女共修に伴う定数については、別途、各県の事情に応じた臨時的な措置を検討する。」と示し、東京都、大阪府などでは、条件整備が実現しつつある。

また、私立高校の取り組みを中心に、学習交流会「男子の家庭科2」を開催したり、川崎市立工高など、共修の進まない学校に働きかけを行った。

男女平等教育についての認識を高める働きかけは続けて行った。女性の意識は高まってきたが、全体に行きわたっているとはいえず、さらに運動を続けることが必要である。

☆会員数はいま二七三名です（四月三日現在）

一九九三年度運動方針

提案 芦谷 薫

〈基本的な考え方〉

今年度は、中学校で「技術・家庭」の男女共修が実施され、高等学校では共修「家庭」の来年度の実施を目前にする年である。とりわけ高等学校では今年前半には各学校の具体的な教育課程が決定される。

実施に向けての条件整備は、家庭科関連の施設設備の準備に比べて教員の確保が立ち遅れており、各学校の教育課程の決定にも影響を与えている。

共修を確実なものにするためには、重点的な運動とともに、より一層各地の情報交換をすすめることが必要である。

〈具体的な活動〉

1、今年度の重点目標

- (1) 各地の中学、高校の実施状況や準備状況について情報を集め、会報等を通して会員に知らせる。
- (2) 共修がすすまない学校に働きかける。
- (3) 男女平等教育についての認識を高める

1993年度決算 提案 榎本 稲子

収入の部

項目	予算額	摘要
前年度繰越	99,417	
会費	962,500	3,500 × 275
集会参加費	40,000	800 × 50
雑収入	24,083	預金利子
合計	1,126,000	

収入の部

集 会 費	50,000	車代 5,000 × 4	資料代 消耗品代
会報費			
印刷費	400,000	4回分 会報16P	
送料	140,000	切手代	
運搬費	8,000	運搬費	
小計	548,000		
維持費			
アルバイト料	260,000	月手当 2万 年末手当 2万	
事務所借料	84,000	事務所借料 月 6,000 + 光熱費 月 1,000	
小計	344,000		
分担金	10,000	国際婦人年連絡会 1万	
通信費	50,000	世話人会報告、事務連絡	
事務費	30,000	事務用品、封筒	
雑費	24,000		
予備費	70,000		
合計	1,126,000		

2、具体的な活動

(1) 1の実現のために次のところに働きかける。

- ① 婦人問題担当大臣 ② 総理府 ③ 国会及び各議会 ④ 文部省 ⑤ 各自治体特に教育委員会 ⑥ 各学校 ⑦ 教育や女性問題に関係の深い各団体や個人 ⑧ マスメディア

(2) 各地で世話人を中心とした活動を強める。そのために世話人相互の連絡を密にする。

(3) 次の活動はこれまでどおり行う。

- ① 世話人会の定期的開催 ② 会報の発行（年4回） ③ パンフレットなどの販売及び活用 ④ 共通の目標を持つ諸団体との連帯 ⑤ 入会勧誘

1992年度決算 報告 榎本 稲子

収入の部

項目	決算額	予算額	比較増減(△)	摘要
前年度繰越	120,703	120,703	0	
会費	823,500	840,000	△ 16,500	3,500 × 延 188名 '92.3.5以前振込分 ¥165,500
集会参加費	32,800	32,000	800	800 × 41
雑収入	27,787	7,000	20,787	カンパ 500 利子 23,904 その他 3,383
計	1,004,790	999,703	5,087	

収入の部

集 会 費	30,524	50,000	△ 19,476	資料代 5,000 × 5人 雑費（切手、コピー送料）
会報費				
印刷費	262,003	250,000	12,003	夏号16P 87,570—秋号18P 91,435—冬号 8P 43,007—春号8P 500部 ¥39,991
送料	144,582	90,000	54,582	切手代
運搬費	6,330	5,000	1,330	タクシー代
小計	412,915	345,000	67,915	
維持費				
アルバイト料	260,000	274,000	△ 14,000	2万 × 13ヶ月分
事務所借料	84,000	84,000	0	（事務所 6,000 + 光熱費 1,000） × 12ヶ月分
小計	344,000	358,000	△ 14,000	
分担金	40,000	40,000	0	第38回母親大会3万 国際婦人年連絡会1万
通信費	45,162	45,000	162	送料 連絡用 通知用（切手、電話） 世話人会連絡
事務費	18,672	44,000	△ 25,328	封筒1000枚 7,450 × 2回分 消耗品費、コピー代等
雑費	0	10,000	△ 10,000	
予備費	14,100	107,703	△ 93,603	学習交流会呼びかけ用葉書代、ちらし印刷代
合計	905,373	999,703	△ 94,330	

一九九三年度世話人

提案 梶谷 典子

北海道 齊藤節子 山形県 佐藤慶子
宮城県 西原典子 福島県 西内みなみ
埼玉県 磯部幸江 榎本稲子 柴田栄子
中嶋里美 羽賀紀子
東京都 青山和世 芦谷薫 石川光子
石川由紀 大平初枝 梶谷典子
駒野陽子 坂本ななえ 半田たつ子
樋口恵子 丸山新男 和田典子
神奈川県 持田ナミ 新潟県 小野塚サチ子
長野県 山浦恒子 岐阜県 橋本登志子
石川県 木下雅子 福井県 荒井紀子
鳥取県 本橋靖子 島根県 大利良枝
兵庫県 香川敦子 岡山県 丹原恒則
熊本県 立山ちづ子 沖縄県 喜久川幸子
計三十三名

各地域で運動を推進する世話人はもつと必要です。年度途中からでも世話人になって下さる方を歓迎します。意志のある方は事務局か世話人にご連絡下さい。

討論から

92年度総括について

一年間にどれだけの行動をしたか確認し、関連の報告(文相と女性議員訪問14ページ参照、埼玉県での運動12ページ参照)もあり、次のように話し合いました。

●母親大会実行委員会への参加をなぜやめたのか疑問の声が出ているので、会報で説明しよう(17ページ参照)。

●県や市の議会を傍聴してみると、ものごとがなかなかすすまないことがわかる。議員とコンタクトをとって効果的に質問してもらうことが必要だ。

●議員との連絡など、世話人会にはかつては間に合わない緊急の行動がしばしば必要になる。できる範囲で連絡をとり合い、運動方針にそって行動すれば、世話人会へは事後報告でよい。

93年度運動方針について

各学校での共修を確実にするためには各地

域での運動が必要です。そのために世話人が連絡を取り合って、地域での運動をすすめるければなりません。そのことを方針にはつきり書くというようになりました。

方針の「2、具体的な活動」の中に「(2)各地で世話人を中心とした活動を強める。そのために世話人相互の連絡を密にする」という項目をつけ加えることにしました。

パンフレット会計
(含 書籍)

前年度からの繰越	1,149,103
'92年度売上	14,640
銀行利息	430
'94年度への繰越	1,164,173

学習交流会

男子の家庭科 3

動き出した男子高校

(4月3日、渋谷女性センターアイリスで)

司会 中嶋里美
半田たつ子
記録・まとめ 柴田栄子

総会の後、一時から五時まで、学習交流会が開かれました。参加者人数は四五名で『男子の家庭科』をめくって、今年は三回目の交流会になりました。

まず、和田世話人から、『男子の家庭科』をテーマにこの会を開くまでの経過報告と今日の状況について、次のような挨拶がありました。「家庭科の共学の実施に向けて、公立の共学校ではまずまずの取組みがなされて来ているが、男子校や私学では出遅れているし、受験戦争の過熱の中で見通しは明るくない。それぞれの学校の苦勞など実態を出してもらって、受験というハードルをどう越えていったらよいのか、考える会にしたい」

各学校、地域の報告

(1)早稲田大学本庄高校 風間益人さん
学校の状況は、一学年、四〇名六クラス規模の学校で、生徒は海外帰国生をはじめ全国

から集まってきた。これらの生徒は民間に委託した三〇軒のホームステイで生活している。94年の新教育課程の改訂に向けて、教科主任会で原案を作成することに決定し教育課程編成に向けてのアンケートを実施した。アンケートの中心は、家庭科の設置について、週当たりの時間、各教科科目の単位と学年配当、学校五日制について等問題提起を行い、各教科で検討し、これを教科主任会でまとめ、原案を作り提案するという手順を踏んでやってきた。

そうして確認された内容は、週三二時間でゆとりをつくる、家庭科を設置する、選択教科の検討、教科の学年配当を標準単位を念頭に置きながら考えていくというものである。

家庭科については、91年4月に「すすめる会」の集会に参加した。このあたりから家庭科共修の説得がある理念が必要になり、和田先生を招いて全員参加の研修会を行った。その中で認識を深めることができ、生活を創り出し、生活を文化に高めていく意欲や力、知恵

が高校の男子にこそ必要であるとの合意に達した。また、親もとを離れて暮らしているのが校の生徒にこそ家庭科は必要という積極的意見も出されるようになった。

92年6月教育課程表ができ、一、二年はコース制を取らず、標準単位を守りながら総合的に学習し、家庭科は生活一般を二単位、体育で残りを代替。不足分は三年次に選択講座を置くことによって家庭科を四単位履修して卒業する生徒も出るようにして、しばらくはこの形で行くことになった。

公募で家庭科教員も決まり、四月から非常勤嘱託として、準備に当たってもらうことになっている。夏休みには既存の施設を改修して、家庭科総合実習室と準備室が出来上がる予定である。

(2)埼玉県川越高校(男子校)岡松哲さん
埼玉県では、90年から家庭科教育推進委員会を作り、一三校ある男子校の条件整備をかがけて取り組んできて、四単位でやるという雰囲気では動いていたが、92年に必修教科の減

単が認められ、家庭科は三単位でもいいということを教育課程委員が聞き付けてきて、三単位が教育課程表にのった。これを四単位にすべしと教人が働き掛けたが適わなかった。93年1月教育局の方から、校長会を通して、未整備校は当面付則第二項を適用してほしいという要望があり、付則第二項にするか、三単位でいくかで教員会議で議論し、結局二年で一単位、三年で二単位になった。進学面での公立高校ばなれで危機感が出てきたことと、本校の教員の半数が卒業生ということとで家庭科のイメージや認識が全くない中で家庭科のことを入れていくのは困難である。家庭科は95年は非常勤で96年から専任の教員でいくことになる。他の男子校は二単位でやることに決定、この二単位も他教科で代替していくことも考えているようである。いずれも家庭科という教科について初めから学ばせるという意図が無い。

(3) 都立化学工業高校大塚須美子さん
下町の高校、不本意で来ている生徒も多い。共学で女子はクラスに二、四名。家庭科はこれまで女子のみであったが、五年度から、二単位共修になり、六年からは四単位共修になる。自分は二年前加配で着任し、都内の工業高校では初めてである。共修を前倒しでや

りたいとカリキュラム委員会に提案、二年目に数学、社会が一単位減を提案、四年度入学生から二、三年生でやることになった。さらに習熟度加配が認められ、どの教科につけるか、職員会議で協議して、家庭科に来ることになり、この四月から二人になった。化学高校というところで家庭科と関係が深い分野も多く、一年より二年からやったほうが生徒の自覚もありやりやすい。自分自身で生活を作っていく力をつけて送り出したい。

(4) 神奈川県立大清水高校樋浦敬子さん
男子校はないので、普通科では、付則二項を適用する特別な事情は無く、多くの高校では四単位の家庭一般でいくことになっている。しかし、不安な点として教員確保の事はある。減単について、県教委は四単位という指導はしている。六年度から一斉に一六〇校が始まると混乱が予想されるので、校内事情が許せばはじめては……という指導もあって、これまで一〇校は前倒しで始めているし、今年度は二〇、三〇校で始まるようである。五日制に應じるために減単対象として、家庭科という声は出ない。共修を当然の事として、受け止めている。

共修の副産物として男女の混合名簿も始められた所もあり、男女を不用に分けていくこ

とは少なくなっていく。形が整っていくと同時にこれから中身も問われてくる。生徒たちは生きる力が稀薄になっている。家庭科のなかで生徒を揺さぶってほしい。共修に向けて、今までにできていない部分を生かし、発展させていきたい。

(5) 東京都高教組 斎藤弘子さん
都高教として、共修にむけての問題点をとらえて克服してきた。一つは三科目が設定されたとき、これは新たな性別役割分業をうみ、能力別に分けようとする意図があるのではと警戒心を強めたが、ほとんどの学校では家庭一般を入れている。指導要領が出た時点で自主編成で共修をしていた学校もあり、現場の方が先行していた。生活一般の付則については、条件整備を進めることを約束させ、適用しないことを取り付けた。減単については、実習教科の家庭科は二十一単位では内容の半分もできない。都教委の編成基準の中に普通科では減単はできないということを盛り込ませた。施設は二七の工業高校の家庭科の施設はほとんどできつつあるし、普通高校の改修も進められている。教員確保については、生徒減、学級減のなかで定数枠によらない加配という方法を要求して、習熟度別加配のなかに家庭科の共学にも応じるとの一文を盛り込

ませた。各県でも何人必要かという具体的数値を持って加配要求をして採用計画を明らかにしていかなければならない。

(6) 千葉、柏日体高校 畑沢セイ子さん
私立高校で家庭科の共修は一九年目を迎える。本校の共学は職場の民主化の中で実現した。職場で一人づつなぜ共学がいいのか説得していった。四人が反対しただけであった。今年から四単位になり、二、三年でやる。共学の被服の授業は何をやるか、男もやるのかと言われるが、今年はミシンが無い中でやるものと言う事で編み物をやった。編むことは手首の運動になり、腕をしなやかにするなど生徒は動機つけてやればやっていく。新しいことに挑戦することは人間の発達を促す、そんな観点に立って考えていけば共修の、衣、もやっていける。工夫が大事で、あれが無ければできないということはない。(男子の作品というガーター編みのマフラーと制作中の写真が回された。ひたむきに取り組んでいる写真も微笑ましく、畑沢先生の熱意に溢れる授業の様子が伝わってくる)

(7) 都立定時制高校 佐藤美代子さん
82年から四単位共修をやっている。最初は男女別学でスタートしたが男子クラスがやりにくくて共学にした。名票も混合、体育も種

目別選択で共学でやっている。定時制は四五分授業なので衣領域はできず、二年で家族食計、保育をやり、三年で食と住をやっている。食物と被服は二単位で選択必修になっており、家庭科を八単位取る男子も五名いる。家庭一般の衣領域が入らないのは時間が足りないからで五単位にしたいというと家庭科の内容は生徒たちが生きていく上で大事だから五単位にしてもよいと言う先生もいる。

質疑応答、話し合い、情報交換

持田さん 神奈川の県立共学校は四単位で行くことで足並みが揃っているようだが、人の面での条件整備はどうなっているのか。市立の高校や有名私立高校の様子は？

樋浦さん 専任二名の配置は出来ていないようである。市立の実態は把握できていない。有名私立高校の情報は入っていない。

風間さん 家庭科を実施する男子校は、当面減単で行くにしる一歩前進といえようが、本来の意味で男女平等を目指すなら、共学化を目指すことが大切。本校でもその方向に向けて、コンセンサスが得られて、その研究会がスタートした。

司会 共修を進めるに当たって別学が非常

にネックになっている。そんな所からも取り組んでいかなければならないと思う。

続いて静岡県武田さん、滋賀県古子さんから発言があったが、それぞれ別記のような原稿を下さったのでここでは割愛する。

名古屋市 名城大学付属高校 清野さん
本校では家庭科のことは話題にすらならない。普、商、機、工のカリキュラムの問題でどう組んでいいのか分からない。県の指導もあるし生活一般で二単位はやって、二単位代替ということになるだろうが、施設、教員の問題もある。愛知県には私学五〇校、男子校一八校あるが、お互いに隣をみながらやっていくという状況で先頭をきって四単位やりますという学校はない。

東京学院 小野さん 男子校で状況を見ながら進めている。文部省が今まで曖昧な表現だった強い姿勢になって、ここでの発表をきいて参考にしたい。

城北埼玉高校 根岸さん カリキュラムの決定が難しい。個人としてはこれから高齢社会に対応するためにも家庭科共修大賛成。埼玉の高校は自分の学校が生き残れば……という感じ。生活一般二単位を三年でやることになりそう。教務の教員を六つのグループに分け、各教科の教員を入れて、チームを作り、カリ

キュラムの案を作り、それを検討して絞って最終的な試案を作った。芸術も四単位から三単位になりそう。

東京錦城高校 鈴木さん 家庭科の扱いを各教科で話し合い、生活一般を二単位一、二年で一単位づつ入れた。家庭科教員は校内で養成していく方法で、希望者を募集。自分が希望し、四月から英語を教えながら、日本女子大に勉強しに行くことになっている。

以上会場におられた男性の参加者からの発言の後、今後の取組みについて次のような意見が提案されました。

「各学校の教師間の情報の交換をはじめ連携が大切である。また、県議会などで文教委員をしている人を通して平等教育の観点から質問してもらうよう働きかける」「学校の中で生徒にどんな力をつけていくのが問われなければ、家庭科のことは話題にならない。私学にも補助金が付く。千葉県では家庭科の施設整備についての調査がきたが、学校の中に家庭科の施設の計画が無ければ補助金はない」「家庭科は受験に役立たない教科ではない。生きた学力をつける教科であることを知らせたい」など出された後、和田さんがこれまでの研究成果を活用して取り組んでもらいたいと締め括って会を閉じました。

夏の集会のご案内

第28回家教連夏季研究集会へのお誘い

大会テーマ

・すすめよう・男女共学の家庭科

・子ども・青年に生きる力を

期日 93年7月28日(水)13時～30日12時半迄

会場・宿泊地 グリーンピア指宿

〒891-03 指宿市東方5000

参加費 5500円・学生3000円

宿泊費 一泊2食 10500円

申込先 近畿日本ツーリスト鹿児島支店

〒892 鹿児島市西千石町17-27

☎0992-23-3205

※申込用紙及詳細は月刊家庭科研究の6月号・8月号誌上記

内容 記念講演「子ども・青年の生きる力と新学力観」 太田政男氏

その外基礎講座 分科会 ミニ講座

特別報告 模擬授業等朝から夜まで

※知覧特攻平和会館・屋久島・種子島の観光も一泊増やして企画して下さい。(榎本稲子)

93夏の夏季フォーラム

7月31日(土)～8月2日(月)、神奈川県箱根仙石原文化センターを会場として(宿泊は隣にあるマウントビュー箱根)開かれます。その会が編集し発行する雑誌になってから二年目。女と男の家庭科新時代、くらしと教育をつなぐ雑誌などに集う人々が、関心を持ち活動をしている事に多彩なゲストを迎えて教育とくらしにかかわる種々の分科会を展開します。全体会は写真家の橋口譲二さん、分科会も「だから家庭科がもしろい(衣生活家庭科で)」「男もする家庭科」等があります。いろいろな出会いを求めてぜひご参加下さい。子ども活動有。

問い合わせ先。☎田編集室

☎045-974-3101 稲邑まで

(磯部幸江)

やはり「女は家庭」……?

総理府の調査

全国の二十才以上の男女を対象に昨年十一月実施、この春発表された総理府の「男女平等に関する世論調査」の「家庭について」の部分をご紹介します。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」

という考え方について、男性は六五・七%が賛成、二八・六%が反対、女性は五五・六%が賛成、三八・三%が反対。

「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」という考え方には男性は六九・〇%が賛成、二三・三%が反対、女性は六五・二%が賛成、二九・一%が反対。

各地から

「熊本一高」問題・その後

立山ちづ子

家庭科必修単位の履修不足が表面化した県立第一高校では、家庭科教員二名のうち、一名は総務部長として保護者との連携活動に力を注ぎ、一名は新設のセミナーハウス副館長に抜擢されていた。家庭科の授業軽視と女性の登用とが同時進行していたことは、女生徒のみの進学校で、男女平等を推進していく上での視点に、男女雇用均等法の課題をそのまま含んでいたことを気付かされた。

鳥取県の男子の履修状況

本橋靖子

鳥取県での男子の「家庭」履修状況は、五月に得た情報では次の通りです。

県立私立合わせて三六校(共学三五、女子校一)のうち一校で「家庭一般」を履修しています。

一校のうち必修は五校、選択は六校。必修五校のうち、共学四単位一校(調理師の資格がとれる学校)、共学二単位二校(園芸科のみ)、別学四単位一校、別学二単位一校。

共学二単位で、食物、保育、看護をやっているところもあります。

「家庭一般」男女共修の今昔

滋賀県立石山高等学校

古子 澄江

東京のアイリスに於て四月三日開催された「家庭科の男女共修をすすめる会」の学習交流会に、滋賀県より偶然の機会を得て参加させて頂きました。その時滋賀の状況についてご質問がありましたので、これまでの男女共修の経緯と現状について報告させて頂きました。そのようなことがきっかけで、滋賀の取組について依頼を受けました。長く苦しい道のりでもあり、その都度多くの他府県の先生方のご指導と励ましをいただきました。たことを考え合せ、お礼の気持ちをかねて、つたないペンを取らせていただきました。

確か、昭和四十年代の後半と記憶しているのですが、家教連の夏の大会が京都でもたれた時、初めて参加させて頂きました。丁度公害があちこちで多発し、家庭科の指導内容の無責任さに疑問を抱き、うつうつとしていた時でしたから、長野県や京都府の先生方の家庭一般男女共修の先進的な取組が強烈で、

その日は大変興奮して帰路に着きました。それ以来何としても男女共修の家庭一般を実現したいという思いがつのり、それから五年後、悪戦苦闘の末、一九七七年より湖南高校（昼間二部制定時制）で滋賀県で最初の取組が始まりました。その当時の記録の一つをたどってみると、一九七五年の日高教第二十二次教育研究全国集会在滋賀県で開催され、そこで、定時制高校に於ける「家庭一般」の指導法の「考察」という標題で、共修に向っての取組を発表しています。その中で家庭科の問題点として、オイルショックの影響から、男子生徒を多く採用している企業が採用中止に踏み切り、女子生徒が九割近くに達したこと。第二に男子生徒が積極的に「食物1」を選択するようになってその人数が増えたこと。これ等は共修を助ける大きな要因に働いたのですが、家庭科の教師間の理解が得難いことや他教科の先生方の同意を得るためカリキュラム検討委員会を作り何回も討議を重ねていることが書かれています。

また、滋賀県の家庭部会の冊子「あゆみ」に一九七六年「男女共修の家庭科はなぜ必要か」という内容で寄稿した所、当時の部会長から「男女の特性論議も種々あるが、母性としての女性を否定することはない。女子教育

の重要な部分を受持つ家庭科教育の意義を否定し、その抹殺をはかる論旨には十分慎重に対処する要があるろう。」という内容の反論が同時に掲載され、このような意識の根強いことに、男女共修の前途の多難さと思い知らされました。しかし、滋賀県では官制の家庭部会の中で少しでも研究体制を築いていくことに努力を払ってきました。はじめは細々と庇を借りて指導内容の検討を始め、一年に一度その成果を手造りの冊子にまとめました。そのような経過の中で次第にこの分科会に入る人数も増え、ようやく一九八九年の新学習指導要領の改訂までこぎ着くことが出来ました。官制の研究会の中で市民権を得るため努力したことは多くの教師に自信をつけ、移行期間に次々男女共修校が増えていくことになり、よかったですと思っています。今年度で男女共修の実施校は県立高校五十五校中十三校となりました。長い共修への道のりの中で、家事・裁縫時代から大変革する歴史的瞬間を何か形にして残して置きたいと思っています。

各地の状況をおしらせください。事務局あてに郵便でお願いします。世話人に電話でおしらせ下さっても結構です。（編集部）

減単は認めないと いうけれど……

——静岡県の場合——

武田 憲幸

新教育課程編成に関し、静岡県では「生活一般の付則の適用」はありません。本年一月の県の集計では、一単位の「減単」があったのはクラス数で約五％、また「家庭一般」は全高校の八〇％だったとのこと。

昨年夏の「文部省伝達講習会」で県は「減単できるのは、職業高校で資格取得の関係でどうしてもという場合で、ここでいう資格は、電検三種・建築士・測量士・准看護婦・海技士・調理師である。」と明言し、私たちはそれを一定評価しました。しかし、同時に「その他簿記のように職業資格ではないが、特色化を図るためどうしても必要な場合は相談してほしい」と説明がありました。

職業高校では、県の「個性化、特色化、弾力化」のかけ声とは裏腹に、必修科目が増え、さらに学校五日制の問題もからみ、さらに普通科志向の強い中、生徒数確保のためにも進学へも配慮したい思惑がありました。また県

は「（複数の小学科のある場合）少なくともどこか一つの科が家庭科を四単位履修しなければ予算措置しない」としたため、職業高校の多くで教育課程編成会議は、騒然としました。結局、工業高校一〇校中、三校、商業高校九校中一校で減単する科がありました。

県は「普通科高校の減単は認めない。」と伝達講習会で説明しましたが、英語科・国際教養科・理数科などのある高校では減単が論議されたようです。実際すべての理数科は減単しています。以前、韭山高校理数科で、家庭科を開講せずにすむように女子の合格基準を男子よりも高く設定し、人数制限をしていたことが問題になりましたが、体質は変わっていません。韭山高校問題の後、県は「形だけでもいいから家庭科を履修していることにしてほしい」と指導し、放課後の授業や集中講義を黙認してきています。今度、六五分授業が行われている高校の理数科では、一授業時間を一・三単位とし、それを二コマ実施して二・六単位、四捨五入して三単位とみなすなどの方法がとられました。この点、理数科は受験偏重の教育を象徴しているのです。

今回、県が作成した「教育課程編成の手引」では、従来示されたモデル案がありません。一昨年の、県高教組の家庭科検討委員会と県

との交渉の折、家庭科教員の多くが「家庭一般」を望んでいることをくんで、県も「『家庭一般』をすすめたい」と回答したのですが、それは反古にされました。逆に「家庭科の教員は教える自信がないから、家庭一般に固執している」と吹聴されるほどでした。「各高校の特色化」という言葉を、県は使いますが、それは県としての指導放棄、だったのです。ここには男女平等教育の一つとして家庭科男女共修を位置づける思想はありません。

また家庭科教員数の問題もあります。現在専任教諭が約一四〇名、講師が約七〇名います。私たちの試算では、共修に伴い約五〇名の専任教諭の不足が生じます。が、県は採用計画を明らかにしていません。毎年一〜三名の採用で足りるはずはないのです。

最後に別学校のことを問題提起します。静岡県には男子高こそないものの、一昨年まで一二校の公立女子高がありました。女子だけ、男子だけの高校で男女共修の家庭科を実践することは、理念からしてもおかしいことです。今、別学高校の共学化をすすめる市民運動をしています。昨年二校の女子高校が共学校になりましたが、職業科の高校・私学も含めれば運動は緒にいたばかりです。皆さんと一緒にこの問題を討議できたらと思います。

もっと議員に働きかけよう

——埼玉県での運動——

中嶋 里美

四月三〇日から五月一日迄私は市川房枝さんの生まれ故郷愛知県尾西市に滞在した。市川房枝生誕百周年事業が尾西市で行なわれ四月三〇日は尾西市と市川房枝記念会主催の講演会と「八七才の青春」上映会が行なわれた。講演では縫田摩子さんが「女性の地位向上と社会参加」のテーマで話をされ約二〇〇名の参加者が熱心に耳を傾けた。

翌五月二日は「尾西市女性史を学ぶ会」主催で市川さんの甥の野田賢市さん（尾西市議）の「おば市川房枝」の講演があり、私も「女の代表は女でなくっちゃ」のテーマで三〇分ばかり話をさせていただきました。又この日には市川房枝さんの生家も訪問し、その空気をいっぱい吸ってきた。

泊めていただいた浅野美和子さん宅で市川房枝さんの一九七四年尾西市訪問の折のテープを聞かせていただいた。八一才で参議院全国区へ立候補された時の全国遊説である。そ

のテープの中からなつかしい市川房枝さんの声で、家庭科共修の必要性が語られていた。市川さんは会の結成の要になって下さった方であり、選挙運動でもわかりやすく共修の必要性を訴えられていた。

私たちは選挙の時、多くの立候補者の演説を聞くが、その時、家庭科の男女共修や男女平等教育を訴えている人に会うのはまだ少ない。この事はまだ議員になる人の認識がそこ迄達していないことである。市川房枝さんのような女性議員がふえることが最も大切だが同時にどの議員にも共修問題を訴えていく運動がなくては変化が起きない。

私も数年前から完全共修の為に埼玉県議会議員に働きかけなくてはと思いつつ、なかなか実行出来ないでいた。世話人の芦谷薫さん達が都立高については三井マリ子さん等に働きかけ、三井さんは教育委員会に対して、詳しい質問状を送っているのを見て、埼玉県でも早くやりたいと思っていた。

所沢市から初めて女性の県会議員が誕生したこと、埼玉県の高校の共修問題のリーダーであり、多くの情報に接している世話人の強力な働きかけで、念願の県会議員への働きかけを今年の三月一日にすることが出来た。先ずは文教委員会全員に「一九九四年を目前に

して、施設設備の整備や家庭科教員の配置等不安な状況が多くあります。特に進学男子校では受験科目が重視され、家庭科等を邪魔者扱いをする現実があります。今、こんな時代だからこそ、男女とも暮らしを愛しみ、グローバルな視野でもって人間らしい生活のあり方を考える教育が大切にされなければ!!」の手紙、家庭科の授業の実践報告、共修をすすめる会の会報を発送した。また、私自身が所沢在住なので、所沢市出身の議員全員にはさらにお願いの手紙をつけ加えた。手紙がついた頃、文教委員会及びその他の県議でかつて組合活動等を一緒にした人には電話を入れた。

女性議員には全員これらの資料を送った。手紙と電話、FAX等の両方があった方が効果的だ。共産党の柳下礼子さんや社会党の岡真智子さんがとても協力して下さいました。又自民党の所沢市出身の並木正芳さんも文教委員会に質問してくれたとのこと。六月議会にむけて再度働きかけをする。やってみて実に効果的と感じた。是非すべての自治体で取組んでいただきたい。

政治の場を男女平等にという目的で結成されている全国フェミニスト議員連盟の議員にも働きかけて欲しい。名簿が必要な方は中嶋迄ご連絡下さい。

高等学校男女共修の条件整備に関して

都教育庁に文書質問

芦谷 薫

あと一年で、新学習指導要領による家庭科男女共修実施という三月、家庭科教員の増員や施設設備の整備がどこまで進み、今後どのように進められるかを、三井マリ子都議会議員に文書質問をしてみました。

質問項目（要約）と、文書による答弁及び教育庁施設課長、人事課長との二回に渡る折衝の結果示された回答のまとめを報告します。

〈質問〉

- 1、93年度の家庭科教員新規採用試験の受験者数及び合格者数は。
- 2、93年度に、家庭科教員を一名増やす予定の学校数と学校名は。
- 3、93年度の家庭科教員の配置に、新規採用試験の補欠合格者も予定されているのは事実か。事実とすれば、93年度の採用・配置計画がどのような見通しでなされたのか。
- 4、各学校現場では、93年度の人員配置計画に注目しており、新教育課程決定の審議に影響を与えていると聞いている。人員配置

という条件整備の問題が、各学校での新教育課程決定に影響を与えるのは本末転倒でありあつてはならない。その点を十分配慮した96年度までの人事計画を示されたい。

- 5、91年度の決算によれば、家庭科関係施設を施行中の四校の校名とその施行内容は。
- 6、これらの設計段階で家庭科関係者の意見を聞いたか。又どのように生かされたか。
- 7、91年度決算報告中の高校家庭科関係施設の整備の不用額——建物構造の変更はどんな点か。ガス水道の数・位置等の合理性に留意したか。
- 8、家庭科関係施設の未設置校数と校名、今後の設置計画は。
- 9、男女が家庭科の施設、設備を使用するにあたり、体位の向上も考慮に入れると、既設校も、その施設、設備の見直しの必要がある。その点に関して今後の予定は。

〈回答のまとめ〉

- 1、受験者は一六四名、名簿登載者は二五名補欠は一五名。
- 2、家庭科教員を一名増員する学校は二九校（定数枠外配置二七、定数枠内配置二）うち一名増で二名配置となる学校二四校、新規配置の学校は五校。（校名略）
- 3、名簿登載者から二三人、補欠から一〇人合計三三名の採用。

- 4、クラス数の確定を待ってから具体的に計画。平成四年（92年度）の規模並だと百人程度の家庭科教員が必要、このうち平成三年で五人平成四年で六人平成五年二九人計四〇名は確保。残りは平成八年までの三年間で完成。
- 5、建設中の学校は工業高校三校、全寮制男子校一校（学校名略）。施設内容は、調理室及び総合家庭科教室。平成五年三月竣工した。
- 6、平成二年に設置した都立高等学校施設検討委員会が家庭科関係教室の在り方を検討。その際、全校を対象とした調査をした。

（※添付資料を見ると、設計段階で生かせるための具体的な質問項目はなく、唯一男女必修化にともなう施設面への意見欄のみ）

- 7、不要説明にある建物構造の変更は、鉄筋コンクリート造りから鉄骨造りに変更。ガス水道等に関しては学校側と十分協議した。
- 8、整備対象校は、一八校。うち一六校については、平成五年度中に、整備完了の予定である。残り二校は、施設改築に伴い同時に整備する（※具体化は示されていない）
- 9、改築の際基準面積を改定し面積増を図っている。既設校の見直しは、改築改修の際学校とも協議し対処したい。調理台の高さ等備品については学校で決める事。配線配管工事等は学校長の権限内。

国際婦人年

連絡会の報告

和田 典子

今年の三月から四月にかけて、連絡会の主な動きと教育関係分野の行動は、次の通りです（順不同）

A、森山文部大臣との面会

三月二日中村世話人はか四団体（新婦人、退職女教師連合会、退婦教、共修の会）が参加して初的女性文相との面会が実現しました。要請の内容は一つは、「男女平等教育についての推進策」——①受験競争下で家庭科必修に消極的な条件未整備の男子校に、実施前年から準備要員を配置する。②教科書編成基準に男女平等を明記する。③オンプズマン的ポストの創設。④従軍慰安婦問題を歴史教科書に記述する。⑤学校の出席簿が男女別になっている点を改めるための施策。⑥公立の学校・学級・学習グループで性が偏らぬような対策を立てる。⑦上記を実現するための基本理念を身につけるために、差別撤廃条約の学習を全国民のものとする。

第二は「子どもの権利条約の批准促進」でしたが、これに対する森山文相の回答は●現在進行中の教育行政で対応できる●現場の人々の意識如何で改善できる途はひらかれているのだから、先覚者である民間の努力を期待したい●オンプズマン的役割は、現在婦人教育課が担当しているなど、でした。

B、女性文教議員への要請

森山文相の対応が期待外れでしたので、国会の文教委員会で取上げてもらうよう女性文教委員に要請することになり、3・23と4・1の二日間、清水嘉子(自)、森嶋子(社)、荻田貞子(公)、乾晴美(連)の四氏と面会、会談しました。文相の場合と同じ内容を要望しましたが、清水氏からは格別の発言なし。森氏は「条約」の呼称は、児童でなく子どもとすべきだ、特別委員会の予算が少く広報活動ができないので民間の力をかりたい、男女平等については機会のある毎に発言してきたと議事録を提供。荻田氏は文相の施政方針には男女平等が欠落していたので追及した、積極的な働きかけが必要、名簿の件は教組婦人部や現場教師がもっと頑張らねば。乾氏は、男女平等推進は政界進出の主眼、男女混合名簿は既に委員会に取りあげた。などの対応がありました。

その後、荻田氏より森山文相の「文部行政の基本施策について」93・2・17衆院文教委員会会議録の写しが送られてきました。

C、森山文相の文教行政施策の基本方針

- (一) 生涯学習の推進（女性の社会参加、リカレント教育、ボランティア施策など）
 - (二) 初等中等教育の充実（高校多様化、週休五日制、三・五才全員就園、エイズ予防）
 - (三) 教育諸条件の整備（小中高教職員配置の改善、四〇人学級、コンピュータ、現職研修、校長のリーダーシップ・教委の活性化、学校環境づくり）
 - (四) 高等教育の充実
 - (五) 私学の振興（経常費補助、適正運営）
 - (六) 学術の振興
 - (七) スポーツ振興
- 臨教審路線の忠実な展開を、総花的にそつなく示していますが、女性については、生涯学習でふれているだけで、男女平等とか役割分業意識へのアプローチは見当りません。

D、子どもの権利条約の審議

前国会から持ちこしていた右「条約」の審議が始まりましたので、4・22の衆議院本会議を傍聴しました。条約は今国会中にも批准

される見通しですが、政府側の態度はたとえば非嫡出子差別、意見表明権、少年司法、権利実現のための推進本部設置など総てについて、国内法の改正も予算措置も、対応策は考えていないようでした。今後もひきつづいて働きかける必要を痛感しました。

E、エイズ予防広報

教育・マスメディア委員会では少年・少女向けコミック誌「少年ジャンプ」「別冊マーガレット」や厚生省作成のエイズ予防リーフを取りあげ、内容検討をすすめています。

F、一九九三年度の教育・マスメディア分野の行動計画案

六月四日の総会にむけて、左の提案をします。「会員」のご意見をおきかせ下さい。

(TEL・FAX、〇三・三四六六・二六六五—和田)

- (1) 小中高の検定教科書を検討し、北京大会へのレポートをつくる。
- (2) 男女平等の立場から、学校や行政の名簿を見直し、是正を申し入れる。
- (3) 子どもの権利条約の実施を監視し、必要な行動をとる。
- (4) 男女平等・人権尊重の立場からマスメ

ディアに対して引きつづき行動する。

- (5) 国際家族年・にむけて他の分野と合同でシンポジウムをひらく。
- (6) その他、情勢に応じて必要な行動をとる。

G、家族・福祉分野の今後のとりくみ

- (1) 子どもの権利条約については、教育・マスメディアと合同でとりくむ。
- (2) 老人保健福祉計画の策定に参画し、特に介護休業の制度化と公的福祉の確立を要求。
- (3) 出産費の健康保険、現物給付の実現。
- (4) 女性と税制についての検討
- (5) 保育所見直しのための「保育問題検討会」の動きに注目し、対応をすすめる。
- (6) 国際家族年にむけ、家族問題について討議する企画を立てる。

H、平和・国際協力についての企画

- (1) 六月四日、武者小路公秀氏（明大教授・元国連大学副学長）による学習会——国連の現状と日本のあり方について——を行う。
- (2) 92・6の国連環境開発会議の報告会（日時未定）

I、ユニフェム委員会の動き

J、「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律案」

三月一日、右法案が国会に上程されましたが、かねてからの連絡会の「パートタイマーはフルタイマーより労働時間が短いだけ」を基本に「パート労働者の権利の確保と、労働条件の格差の是正」を申し入れました。

K、一九九五年北京世界婦人会議

第四回会議は、一九九五年九月四日～十五日、北京で開催されます。会議では「ナイロビ戦略」の第二回見直しと「行動綱領」採択。NGOフォーラムも同時開催予定ですが詳細未定。連絡会もとりくみを検討の予定。

世話人会報告

〈3月6日〉

一、総会に向けて

92年度総括と93年度運動方針を検討。

予算・決算をほぼ報告・提案の通り承認。

二、総会・学習交流会、懇談会等の各任務分担を決める。

三、連絡会代表の文部大臣との面会の報告。

大臣との面接は通常5分程度だが、今回は11時より40分間行われた。(14ページ参照)

四、テレビ番組取材の件

○クリエイティブ・ネクス社より、市川房枝、生涯百年記念の企画として「教育の中の男女平等」の共修運動、現状を録画したいと申入れがあった。

○4月3日の交流会を取材したい。

○放映予定は5月16日午後4時30分より6時。テレビ朝日・サンデープレゼント。

五、フェミニスト議員連盟(中嶋里美さん、三井マリ子さんも会員)にいまの家庭科共修の情勢を理解し、共修をすすめるために協力をしてもらえよう働きかけをする。

六、日本教育新聞に家庭科の男女必修で「普通科に必修単位減、認めず」と文部省より指導したいという記事。尚、文部省関係予算案

も大幅増となった。(18ページ参照)

(大平初枝)

〈4月3日〉

総会、学習交流会終了後にアイリスにて夕食をとりながらの会でした。まずは、盛会だった学習交流会の総括から。報告者も含めて四名の参加。遠方からの出席もあり、各地の状況も聞くことができた。具体的な取り組みが始まっているので、問題も明らかになってわかりやすかった。会の様子はテレビの取材があり、共修運動の現状を市川房枝さん生涯百年めの特別番組で放映の予定。

会報夏号の内容について、一六ページの予定であったが、今は状況が変化している時でより多くの情報を載せるためにページ数をふやすことにした。

今後の運動について、文部省が職業科の特別措置適用の指針となる「基本的な考え方」を二月中に作成する予定であるのでこの詳細を検討する。各地の世話人との連絡を密にするための分担をきめて連絡をとりあう。埼玉で県議会に働きかけたように他の地区でも取り組む。

(磯部幸江)

〈5月9日〉

●報告

1「母親大会実行委員会への参加をやめたわけ」について、会としての意見を確認(17ページ参照)

ジ参照)

2連絡会の報告(14~15ページ参照)

394年から高校家庭男女共修がスタートすることについて、赤旗3月7日誌上に「男子の家庭科・男子校・工業高校で今……」のみだして和田世話人の記事がのった等、マスコミについて(18ページ参照)

4東京、鳥取の家庭科の男女共修に関する状況(9、13ページ参照)

●協議

1財東京女性財団に助成の申込みを来年度することにする。

2各地で議会へ働きかける(埼玉県議会・中嶋)手だてを考えてすすめる。

3地方世話人に各地で何ができるか働きかけを。

4寺脇職業教育課長談(3/5内外教育より)文部省も、受験対策のための「家庭科」の単位削減にクギをさす指導をしている。こういう風向きの変化を早く知らせる様つとめる。

5様子をみて婦人問題担当大臣に面会する。

6国会への働きかけとして女性議員との集会形式懇談会を企画したい。

7各学校へも働きかけをする。各集會に進んで出席する。機関誌に寄稿する等、各方面への働きかけをさらにすすめることが話しあわれた。

(榎本稻子)

母親大会実行委員会への

参加をやめたわけ

梶谷 典子

前号の世話人会報告(二月二六日の分)

でお伝えしましたように、当分は、会として母親大会実行委員会に参加しないことを決めました。どうしてかと疑問をお持ちの方もいらっしゃるようですので、そのわけを少しらせたいします。

母親大会実行委員会への参加をとりやめたのは、労力的に無理だからです。

会では、「婦人団体……等に広く働きかけ」ることや、「同じ目的を持ったグループとの連帯をすすめる」ことを基本方針としています(「家庭科の男女共修をすすめる会運動のすすめ方について」二の3、4)が、会「家庭科の男女共修を実現させる」という限定された目標をかかげていますので、「働きかけ」や「連帯」も限られた範囲です

すすめています。その限られた運動の中で母親大会実行委員会に参加し続けて来たのは、共修への理解を広める上で特に意味があると考

えたからです。けれども、労力不足から十分なことはできませんでした。「家庭科教育」や「男女平等教育」の分科会を担当しましたが、首都圏の世話人が一人も参加できず、大会が開かれる地域の世話人や会員にすべておまかせするということもありませんでした。不十分な参加のしかたでも決して無意味とはいえませんが、新教育課程の完全実施を目前にして力を集中しなければならぬ時、母親大会のために労力を使うことはもう無理だと判断しました。

もともと、国際婦人年連絡会には参加を続けています。連絡会では家庭科共修の問題が継続的に取り上げられ、目に見える成果があります。連絡会の諸団体といっしょに行動することによって、会として単独に行動するよりも効果が上がることがしばしばです。限定された目的のために、乏しい労力で運動を続ける、会としては、運動をできるだけ効果的にすすめることがぜひ必要です。そのため連絡会への参加は無理をしても続けたいと思います。

連絡会と同じように少い分担金で直接的な効果があれば、母親大会への参加も無理をしても続けることになったでしょう。いくらか、考え方の違いもありました。

母親大会では新学習指導要領白紙撤回の要求も出ていました。会としては、新学習指導要領全体を支持するわけではありませんが、運動の結果ようやく実現の運びとなった家庭科男女共修まで含めて否定することには賛成できません。

母親大会という名称にも問題があります。女についての固定的なイメージにつながりやすから、変更するようくり返し提案しましたが取り上げられませんでした。伝統的な名称にはそれなりの意味がありますし、諸外国と歩調を合わせようとすることも理解できますが、世界に向けても名称の変更を要求して行く時期ではないでしょうか。

けれどもこうした意見の違いは、いっしょに行動することを妨げるほどのものではありません。参加を続け、意見を出し続けられよいのですが、残念ながら今の会にはそれだけの力がないのです。

もちろん、個人として参加できる方は、積極的に大会に参加していただきたいと思

います。今年の第三九回日本母親大会は、全体会が七月三十一日(木)山形市総合スポーツセンターで、分科会は八月一日(金)山形大学です。

文部省も積極的になりました

「新しい『運用指針』など」

半田 たつ子

長い間、家庭科男女共修をすすめる運動が続けてきて、私たちは口を開けば文部省の硬直した姿勢を嘆いてきた。しかし、その文部省が、身を入れて家庭科男女共修に取り組み始めた。

平成五年度の文部省関係予算案では「男女平等をめぐる意識変革」の「学校教育の充実と社会教育の推進」を、前年度の一・八倍増額し三六億四九〇〇万とした。ここには、社会教育施設活性化支援事業の他、学習指導要領趣旨徹底講習会、家庭科教員を対象とした新科目実技指導講座（五会場）が含まれる。

また日本教育新聞2・13付一面報道によれば、産業教育振興法に基づく家庭科施設・設備費（三分の一補助）については三一億五三〇〇万円（うち私立分三億四八〇〇万円）を計上し、前年度に比べて一八億円近い大幅増になったという。

さらに、普通科の男子進学校などが、「生徒の実態及び専門教育を主とする学科の特色

等」を考慮し、特に必要がある場合には、その（必修科目の）単位数の一部を減じることが出来る」のただし書きを適用して、単位減しようにする動きに対して、運用指針を決め、各都道府県教委に通知した。

指針はただし書きの適用を職業科に限定、職業科でも①資格取得のための専門教育の科目を多くする必要のある場合②実験・実習の時間を多くしたりする場合、だけとした。

同省の寺脇研・職業教育課長は「普通科においては特例によって家庭科の必修科目の単位数はありえない」とし、「生活一般」に限り家庭科施設・設備や担当教員など条件が未整備の場合「当分の間」保育などで二単位代替できる点についても、条件整備完成による代替措置終了時期の明示を求めるといふ。「当分の間」を半永久的と勝手に受け止め、次期改訂まで時を稼ぐつもり为学校もあったようだが、それに歯止めをかけたのである。

教員定数については、第五次公立高等学校学級編制及び教職員配置改善計画（92・12・10発表）とは別に、「各県の事情に応じた臨時的な措置を検討する」ことが、財源を受け持つ自治省との間で合意済みという（愛知県教委は、この「」内を活用し、急場しのぎの方策で、他教科教師を促成の研修で家庭科教

師に転身させようとしているが……）。

本来なら、文部省は学習指導要領告示後直ちに施策を講じるべきだが、ようやく重い腰を上げた。それに比して、今なお学校教育現場の家庭科男女共修への認識は低い。単身赴任した時困らないようにという次元からは脱し、女子差別撤廃条約との関連や「男女共同社会」のスローガンから、時代の趨勢と受け止める人はふえた。しかし、男女共修の家庭科が持つ教育的意義を認識する人はまだまだ少ない。さらに男女共修は、必然的に男女共教でなければならないとして、男の家庭科教師を育てる道もまだまだ狭い。

NHKは、五月六日の「おはよう日本」首都圏枠でこの問題を取り上げた。担当者はいずれ全国枠でも取り組みたいと意欲的だった。また五月末のNHKラジオ「教師の時間」で、牧野カッ子さんと現場教師と私とでてい談をしてほしいとの依頼も受けた。

家庭科の新世紀を迎えた今、私たちは、男女共修の家庭科がうまく発足し、望ましい形で定着するために精力を注ぐべきだと思うが、一番遅れているのは学校現場と見るのは、私のひが目だろうか？